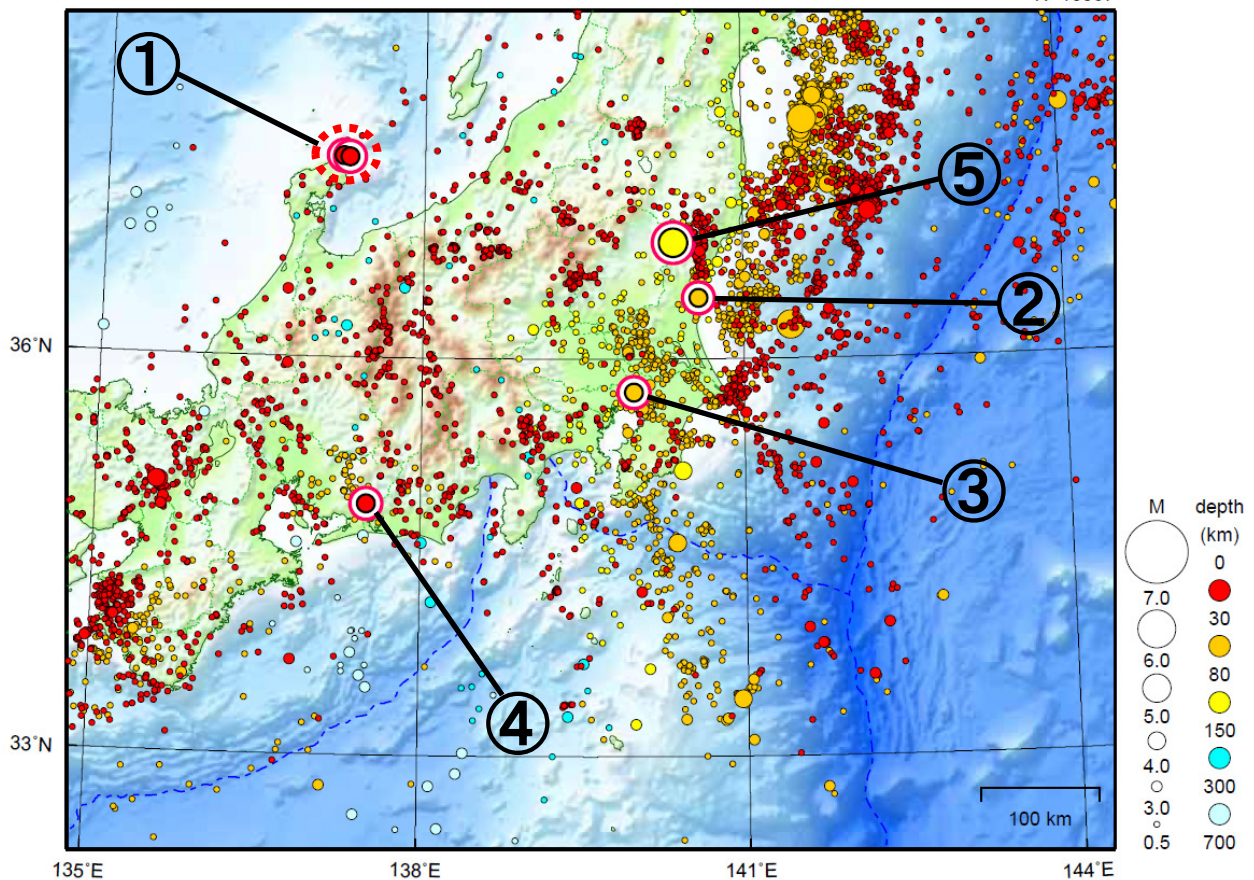


関東・中部地方

2022/04/01 00:00 ~ 2022/04/30 24:00

N=13867



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 石川県能登地方では4月中に最大震度1以上を観測した地震が18回（震度4：2回、震度3：1回、震度2：8回、震度1：7回）発生した。このうち4日のM4.3の地震及び8日のM4.2の地震により最大震度4を観測した。
- ② 4月2日に茨城県北部でM4.4の地震（最大震度4）が発生した。
- ③ 4月4日に千葉県北西部でM4.6の地震（最大震度3）が発生した。
- ④ 4月7日に愛知県東部でM4.7の地震（最大震度4）が発生した。
- ⑤ 4月19日に茨城県北部でM5.4の地震（最大震度5弱）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は〔福島県中通り〕である。

（上記期間外）

5月3日に東京都多摩東部でM4.6の地震（最大震度3）が発生した。

5月5日に茨城県南部でM4.8の地震（最大震度4）が発生した。

〔上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。〕

気象庁・文部科学省

石川県能登地方の地震活動

震央分布図

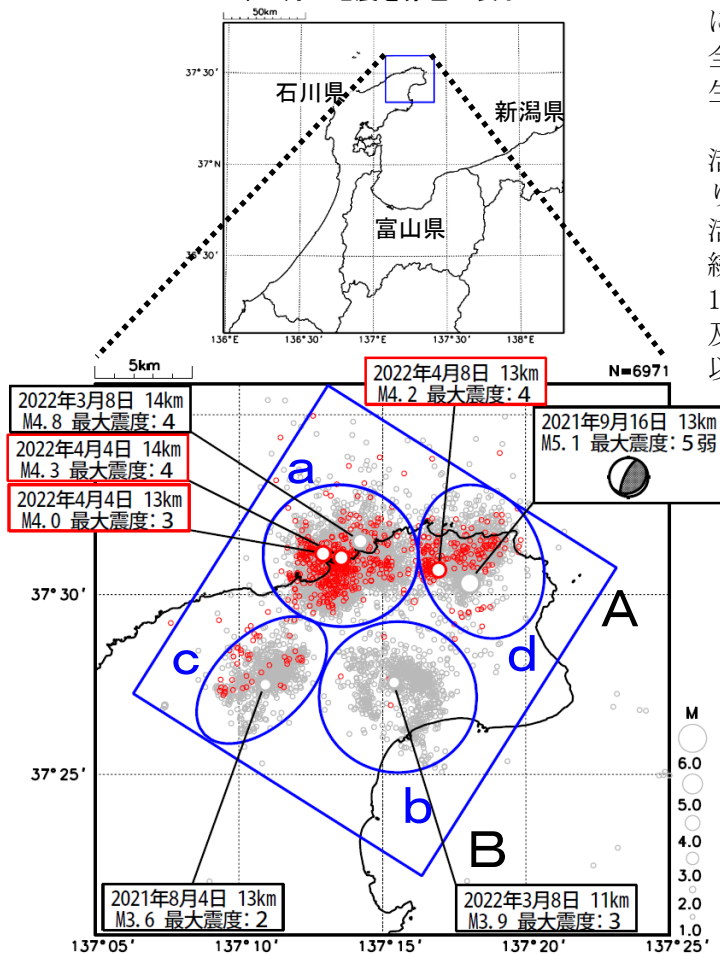
(2020 年 12 月 1 日~2022 年 4 月 30 日、

深さ 0 ~ 25km、 $M \geq 1.0$)

黒色の吹き出しは領域 a ~ d 内で最大規模の地震

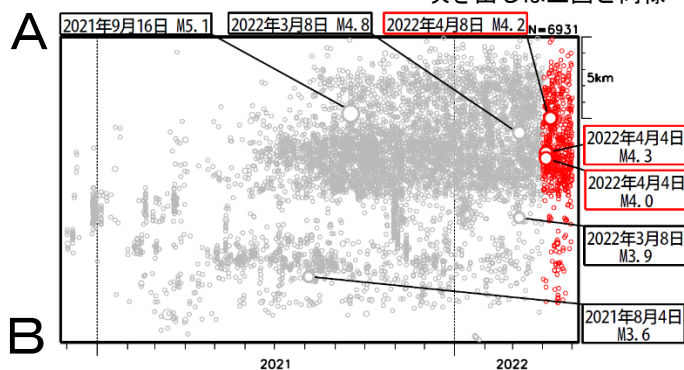
赤色の吹き出しは矩形内で 2022 年 4 月中の M4.0 以上の地震

2022 年 4 月の地震を赤色で表示



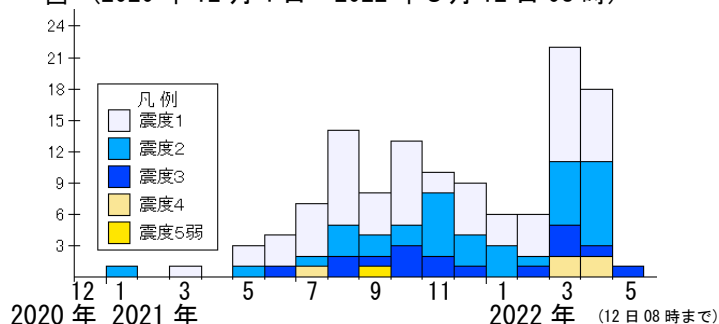
上図矩形内の時空間分布図（A-B投影）

吹き出しは上図と同様



矩形内の地震の月別震度別発生回数

(2020 年 12 月 1 日～2022 年 5 月 12 日 08 時)



石川県能登地方（拡大図の矩形内）では、2018 年頃から地震回数が増加傾向となり、2020 年 12 月から地震活動が活発になった。2022 年 4 月中もその傾向は継続している。2022 年 4 月中の最大規模の地震は、4 日に能登半島沖^(注)で発生した M4.3 の地震（最大震度 4）である。また、8 日には M4.2（最大震度 4）の地震が発生した。なお、活動の全期間を通じて最大規模の地震は、2021 年 9 月 16 日に発生した M5.1 の地震（最大震度 5 弱）である。

2020 年 12 月以降の領域別の地震活動をみると、最初に活発化した領域 b の活動は、2021 年 4 月以降鈍化傾向であり、2021 年 11 月初頭前後や 2022 年 1 月頃、3 月頃に一時活発になったが、2022 年 4 月中は低調であった。領域 b に続き活発化した領域 c の活動も鈍化傾向であるが、2021 年 12 月はやや活発になった。一方、遅れて活発化した領域 a 及び領域 d の活動は依然活発である。矩形領域内で震度 1 以上を観測した地震の回数は以下の表のとおり。

(注) 情報発表に用いた震央地名は「石川県能登地方」である。

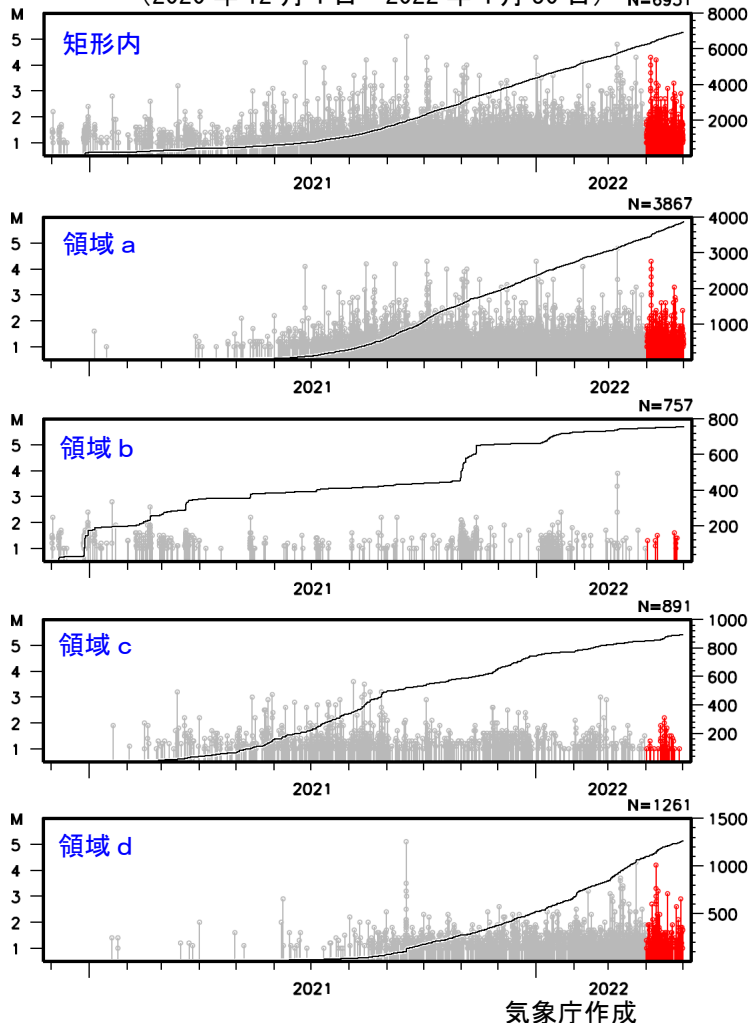
期間別・震度別の地震発生回数表

期間	震度					
	1	2	3	4	5弱	計
2020 年 12 月 1 日 ～2022 年 3 月 31 日	57	29	14	3	1	104
2022 年 4 月 1 日～30 日	7	8	1	2	0	18
2022 年 5 月 1 日～12 日 08 時	0	0	1	0	0	1
計	64	37	16	5	1	123

左図矩形内及び領域 a ~ d 内の

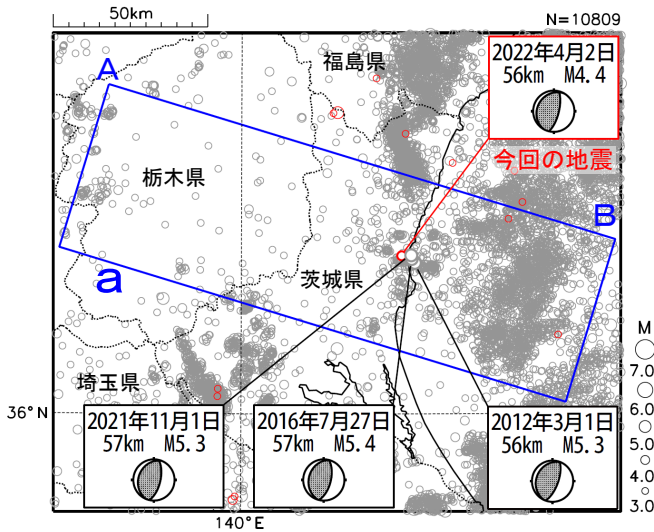
M-T図及び回数積算図

(2020 年 12 月 1 日～2022 年 4 月 30 日)



4月2日 茨城県北部の地震

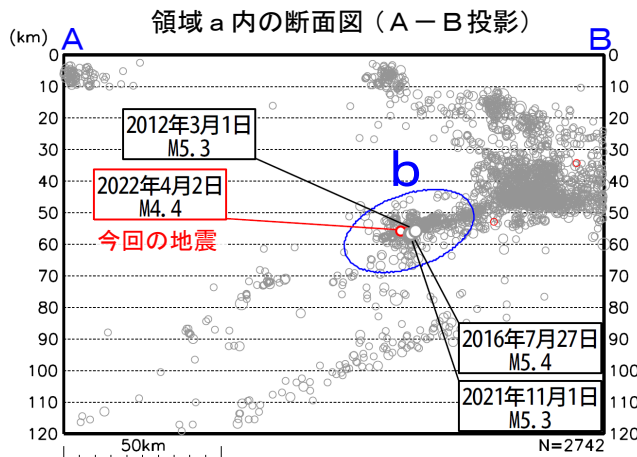
震央分布図
(1997年10月1日～2022年4月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 3.0$)
2022年4月の地震を赤色で表示



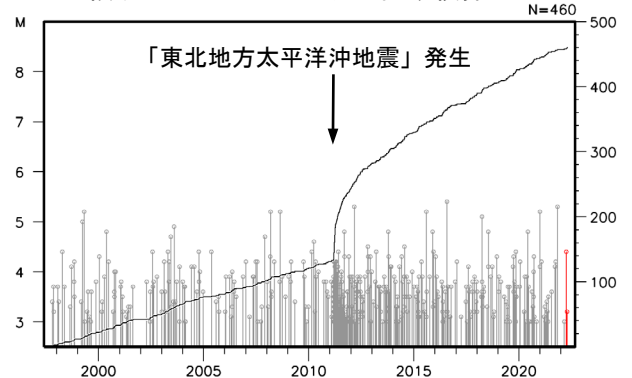
2022年4月2日16時27分に茨城県北部の深さ56kmでM4.4の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M5.0以上の地震が時々発生している。「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）の発生以降、活動がより活発になっており、2012年3月1日にはM5.3の地震（最大震度5弱）、2016年7月27日にはM5.4の地震（最大震度5弱）などが発生している。

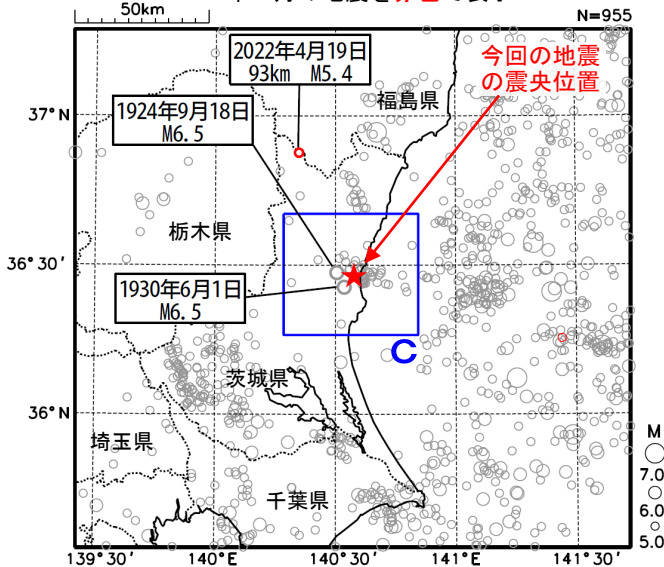
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域c）では、M5.0以上の地震が度々発生しており、このうち、1930年6月1日に発生したM6.5の地震（最大震度5）では、がけ崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。



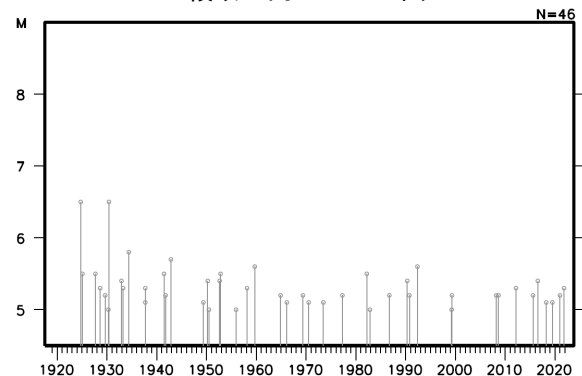
領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2022年4月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)
2022年4月の地震を赤色で表示



領域c内のM-T図

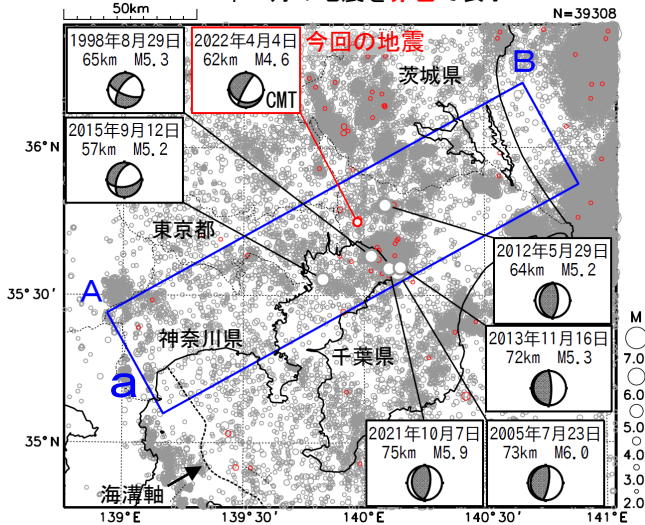


4月4日 千葉県北西部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2022年4月30日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)

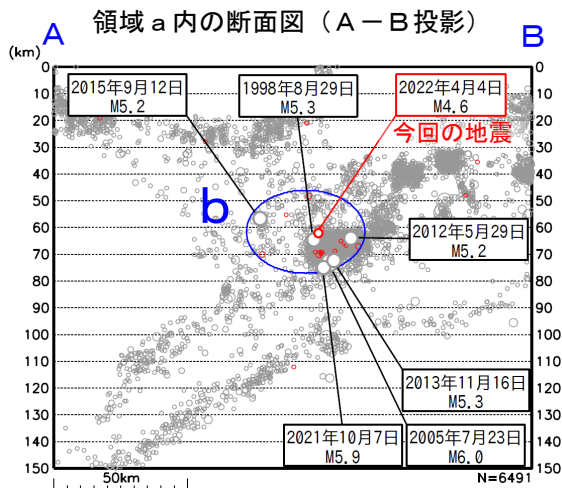
2022年4月の地震を赤色で表示



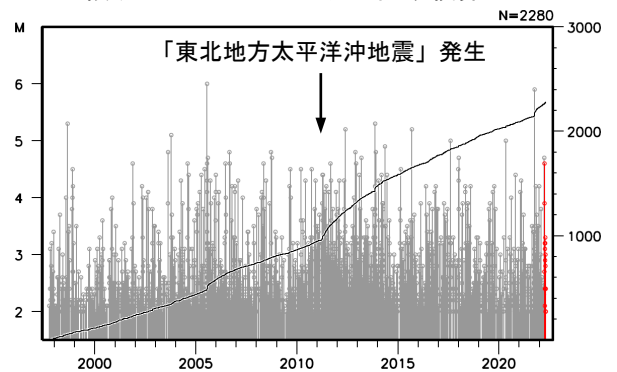
2022年4月4日22時29分に千葉県北西部の深さ62kmでM4.6の地震（最大震度3）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は北西－南東方向に張力軸を持つ型である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、2005年7月23日のM6.0の地震、2021年10月7日のM5.9の地震（ともに最大震度5強）が発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。また、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の発生以降、地震活動が一時的に活発になった。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。このうち、1926年8月3日に発生したM6.3の地震（最大震度5）では水道鉄管等の破裂や石垣崩れなどの被害が、また、1956年9月30日に発生したM6.3の地震（最大震度4）では負傷者4人などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。



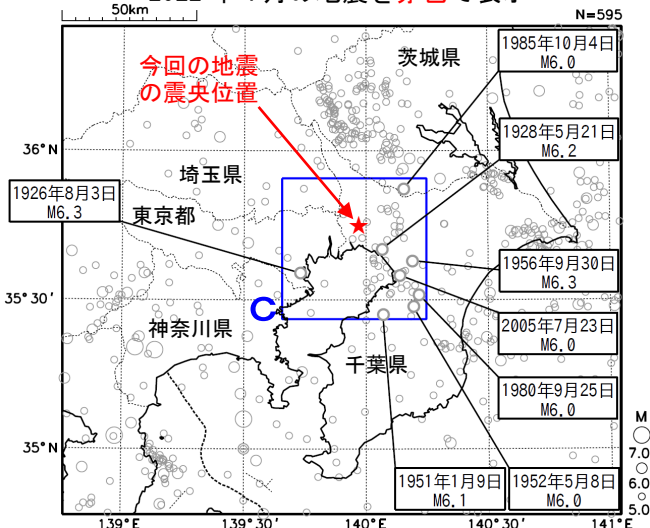
領域b内のM-T図及び回数積算図



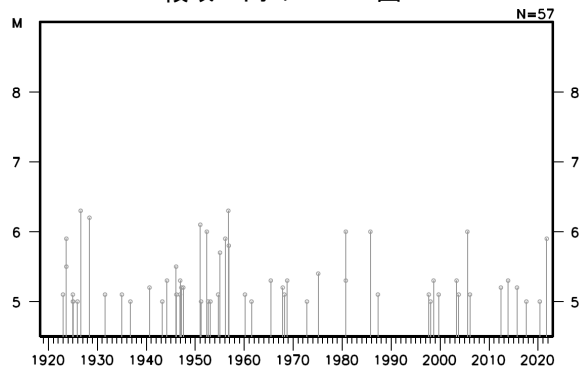
震央分布図

(1919年1月1日～2022年4月30日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

2022年4月の地震を赤色で表示

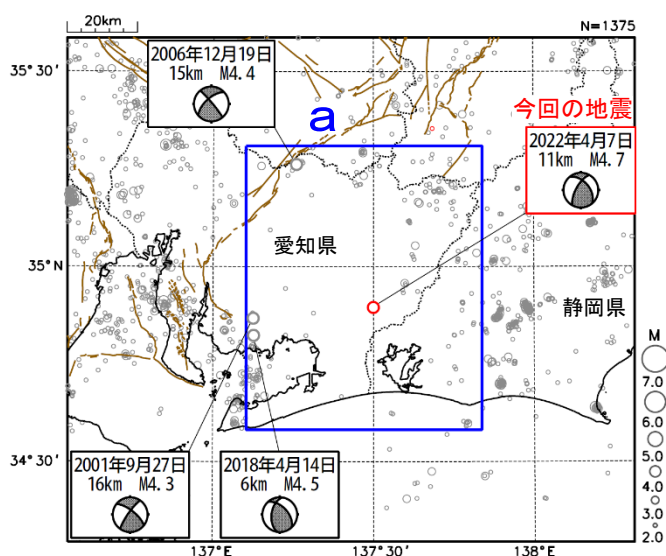


領域c内のM-T図



4月7日 愛知県東部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2022年4月30日、
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)
2022年4月の地震を赤色で表示

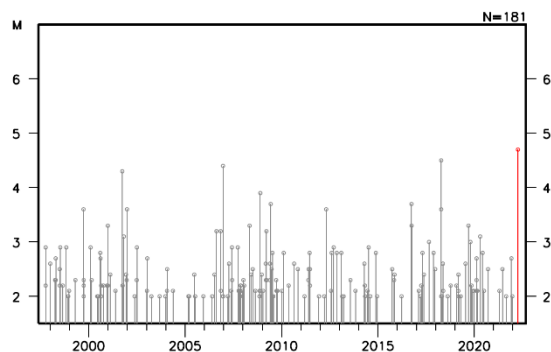


2022年4月7日09時30分に愛知県東部の深さ11kmで $M4.7$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

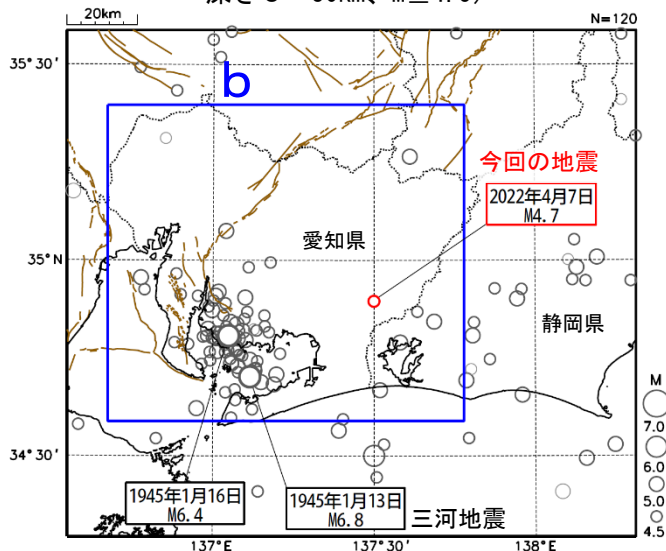
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、 $M4.0$ 以上の地震が時々発生している。2018年4月14日には $M4.5$ の地震（最大震度4）が発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、1945年1月13日に $M6.8$ の地震（三河地震）が発生した。この地震により、死者1,961人、重傷896人、住家全壊5,539棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

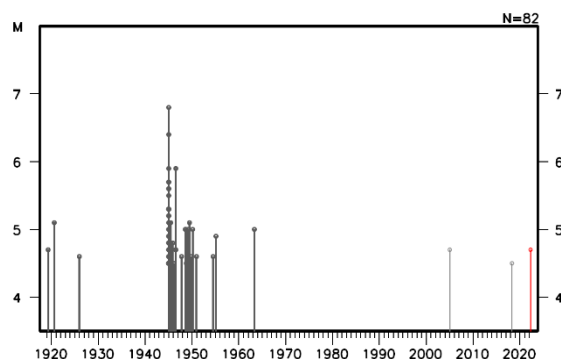
領域a内のM-T図



震央分布図
(1919年1月1日～2022年4月30日、
深さ0～30km、 $M \geq 4.5$)



領域b内のM-T図



震央分布図中の茶色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

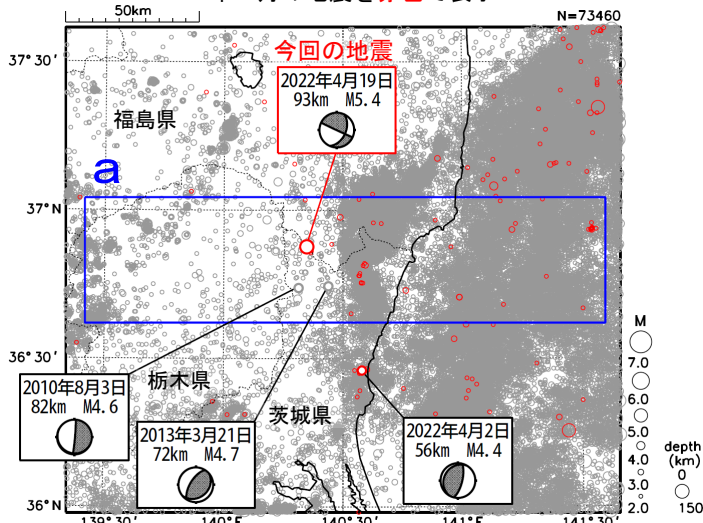
4月19日 茨城県北部の地震

情報発表に用いた震央地名は〔福島県中通り〕である。

震央分布図

(1997年10月1日～2022年4月30日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)

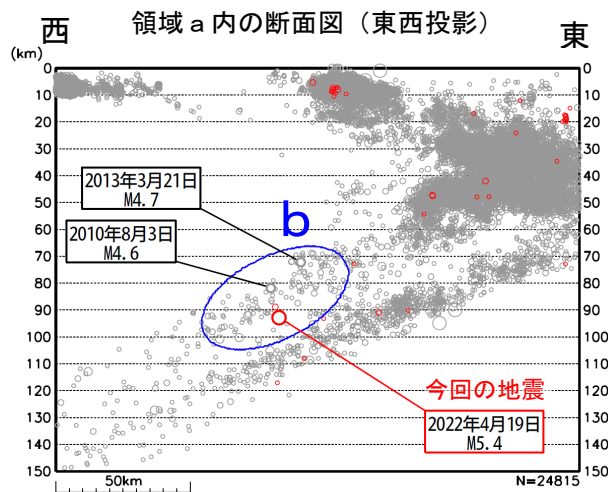
2022年4月の地震を赤色で表示



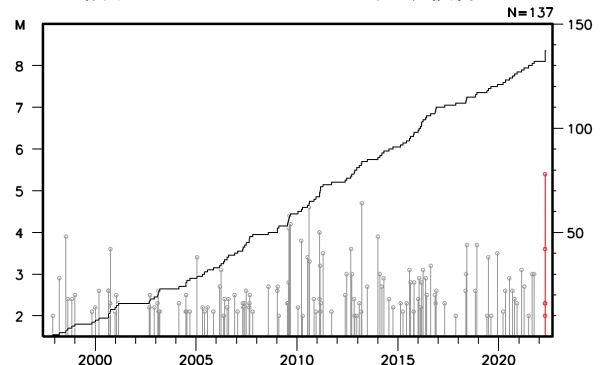
2022年4月19日08時16分に茨城県北部の深さ93kmでM5.4の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構は東北東～西南西方向に圧力軸を持つ型である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M4.0以上の地震は時々発生しているが、M5.0以上の地震は発生していなかった。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の発生以降、2016年までにM6.0以上の地震が4回発生している。このうち、2011年4月11日に発生したM7.0の地震（最大震度6弱）により死者4人、負傷者10人、翌12日に発生したM6.4の地震（最大震度6弱）により負傷者1人などの被害を生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。また、2016年12月28日に発生したM6.3の地震（最大震度6弱）により負傷者2人などの被害を生じた（被害は総務省消防庁による）。



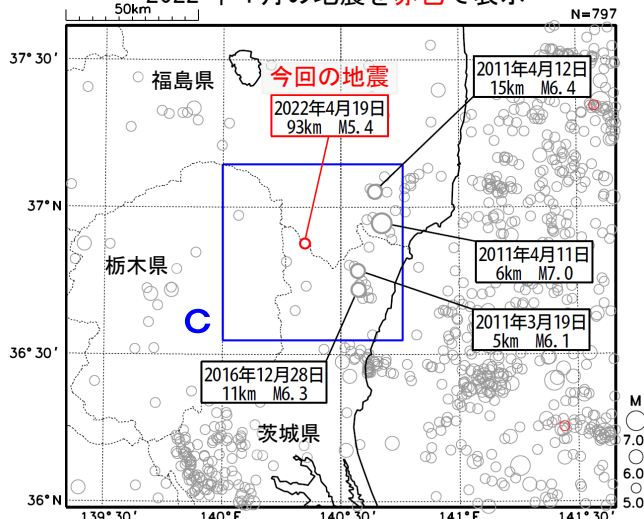
領域b内のM-T図及び回数積算図



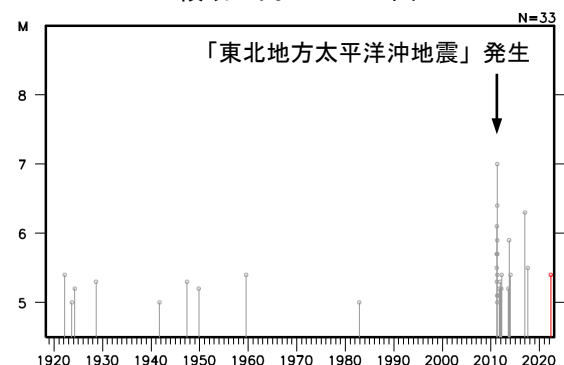
震央分布図

(1919年1月1日～2022年4月30日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)

2022年4月の地震を赤色で表示

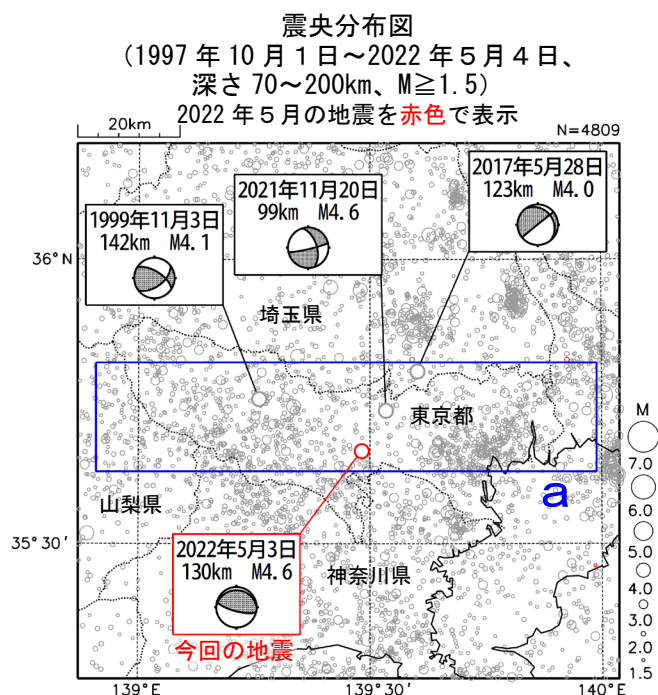


領域c内のM-T図

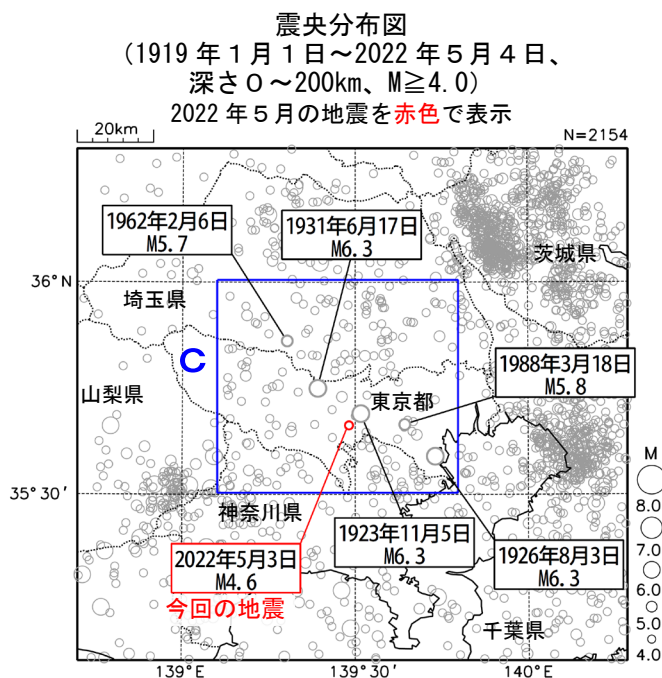
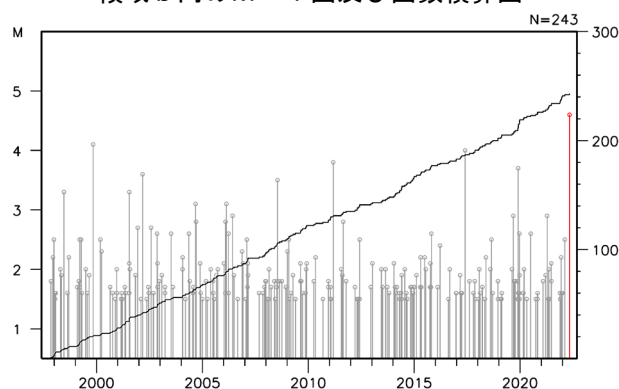


気象庁作成

5月3日 東京都多摩東部の地震



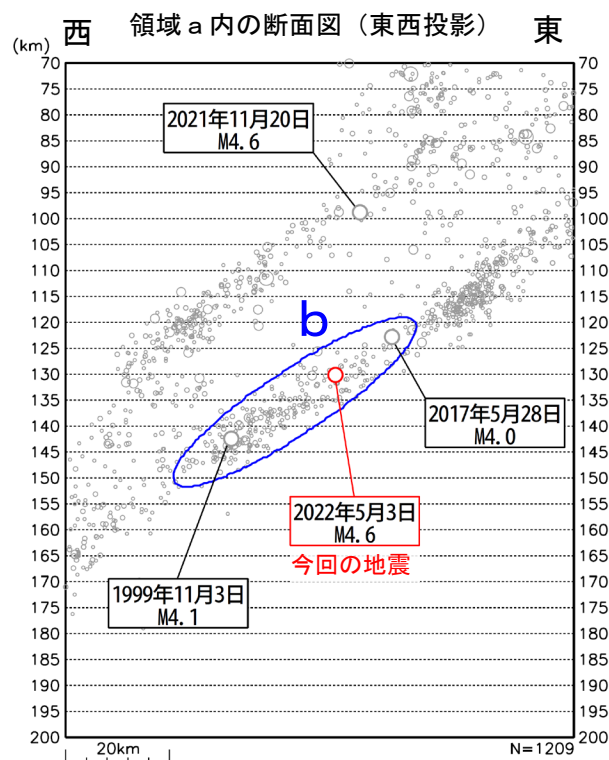
領域b内のM-T図及び回数積算図



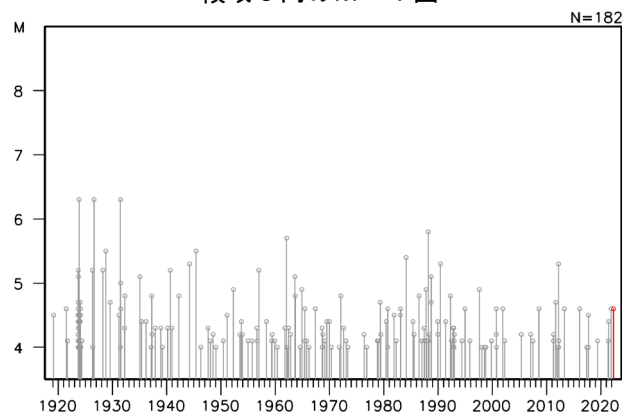
2022年5月3日19時39分に東京都多摩東部の深さ130kmでM4.6の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、太平洋プレート内部で発生した。この地震の発震機構は、北北東-南南西方向に圧力軸を持つ型である。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M4程度の地震が数回発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域c）では、M5.0以上の地震が時々発生している。1988年3月18日に発生したM5.8の地震（最大震度4）では、負傷者9人などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

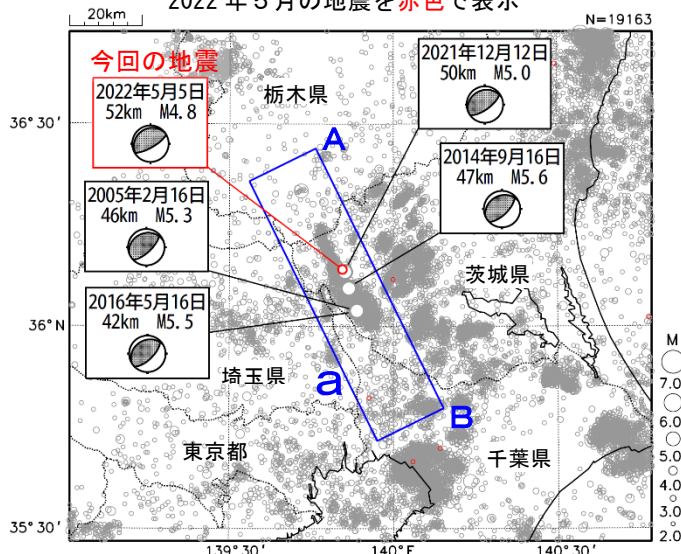


領域c内のM-T図



5月5日 茨城県南部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2022年5月5日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)
2022年5月の地震を赤色で表示

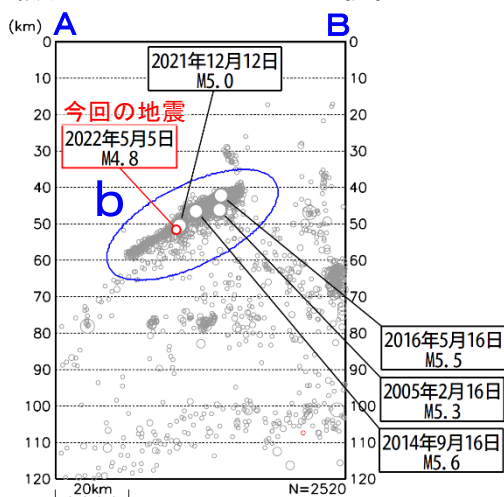


2022年5月5日18時42分に茨城県南部の深さ52kmで $M 4.8$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

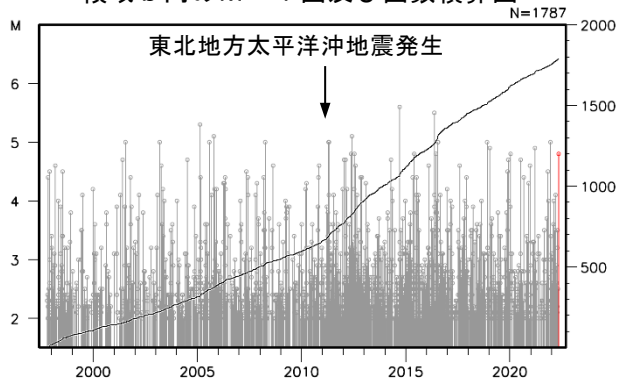
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）は活動が活発な領域で、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」発生以降、地震活動がより活発になった。最近では2021年12月12日に $M 5.0$ の地震（最大震度4）が発生した。また、2014年9月16日に $M 5.6$ の地震（最大震度5弱）が発生し、負傷者10人、住家一部破損1,060棟等の被害を生じた（総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。

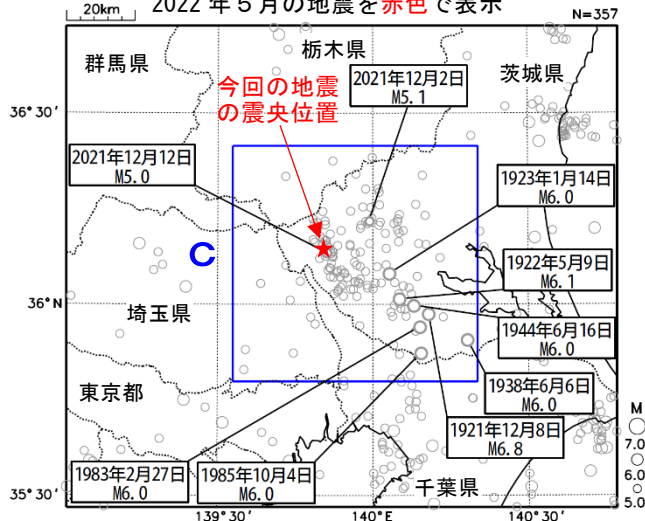
領域a内の断面図（A－B投影）



領域b内のM－T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2022年5月5日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)
2022年5月の地震を赤色で表示



領域c内のM－T図

